

田舎の町の八百屋の店先を畫きしもの、色の取合せなど面白い。

#### 七四 小流(半切程、横)石川欽一郎氏

活々とした、筆に力のある達者な繪である、位置も面白い、色も豊富で、粗い描き方の中に細かい意味が含まれてゐる。此繪は

三宅氏の『湯ヶ野の冬』と

並んでゐるが、二者を對

照して見ると極めて面白

い、石川氏はスケッチ畫

家で、一枚の繪の寫生に

一二時間宛三日も通へば

ドンな大作でも出来る

といふやうな人、一寸した

スケッチには二十分三十

分でよく印象を捕へて描

き上げて仕舞ふ、そして

繪が如何にもラクに出来る。

反之三宅氏は隨分長

時間突ついてゐる方で、

この結果として瞬時の現

象を描き出すことは不得意である、其繪には如何にも苦心の痕

が見えて伸々とした處を見出しがたい、石川氏のやり方のよい場

合もあり、三宅氏のやうにやられなければならぬ場合もあらう、其の

利害は今こゝに論ずべきではない、たゞ二家の異なる點を上げ

て讀者の參考に供せし迄である。

以上のほか、寺田英俊氏の『少女』、織田一磨氏の『鼠色の海』、

野田半三氏の『郊外』、森本茂雄氏の『午後の日』、テリー氏の『バ

ラの花』等もあるが、これ等の評は今回はお預りとする。

要するに本年の水彩畫の

出品はあまり振はぬ方

で、面積の大なる繪も前

年よりは少ない、また前

年出品されし、大橋正堯、

磯部忠一、石井滿吉、安

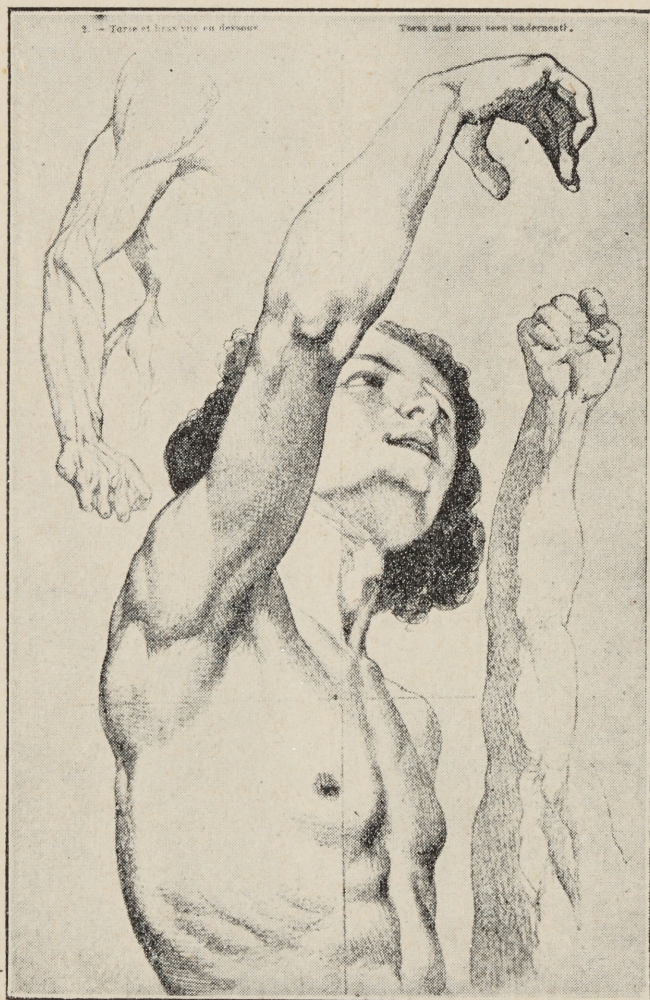
藤復藏等諸氏の製作を欠

きしは残り惜しきとであ

る。

\* \* \*

\* \* \*



カッサン氏筆臨本の内

猫は藝術家に縁が深い、米國の畫家ベンヂヤミンウエストは、幼

い時に飼猫三毛の毛を剪刀で摘み切つて、手製の筆を作つて畫

き習つた。ウエストは段々繪がうまくなつたが、猫は益々寒く

なつたやうな。